



協会情報誌

ふれあい

FUREAI
No. 115
2025 秋・冬

公益財団法人 千葉市国際交流協会

Chiba City International Association

ちば市国際ふれあいフェスティバル 2026を開催!来場者募集

入場
無料!

日時 令和8年(2026年)2月8日(日) 11:00~15:30(予定)

場所 千葉市役所1階 市民ヴォイド (千葉市中央区千葉港1-1)

世界を旅するように楽しめる一日! 国際交流・国際協力のボランティア団体による活動紹介やバザー、色とりどりの民族音楽や舞踊のステージをお届けします。

さらに!会場には国際色豊かなグルメを味わえるキッチンカーも登場。エスニック料理から人気の一品まで、まるで世界の屋台巡り!! 小さなお子様から大人まで、どなたでも大歓迎。異文化を“見て・聞いて・味わって”楽しめるお祭りです。入場無料で、予約不要、出入り自由です。ぜひご家族やお友達と一緒に、遊びに来てください!



ネパール人とベトナム人が淹れる
ネパール珈琲 & ベトナム珈琲



キッチンカーによる料理の販売

主催: ちば市国際ふれあい
フェスティバル
運営協議会
共催: 千葉市

..... 目 次

- P1 ちば市国際ふれあいフェスティバル
2026開催
- P2~3 令和7年度 上半期事業報告
青少年交流事業、交流サロン等
- P4 シンポジウム
「多文化共生と日本語教育」
- P4~5 賛助会員団体の紹介
言語交流研究所
ヒッポファミリークラブ
千葉ユネスコ協会
- P6 協会基本情報、賛助会員募集



令和7年度 上半期事業報告

青少年交流事業

(1) アメリカ・ヒューストン市 受入

受入期間: 2025年6月2日～6月14日

来業者: カナダの中学生4人、引率者3人(教員2人、校長先生1人)

※アメリカ・ヒューストン市のRiver Oaks Baptist Schoolの生徒と教員
滞在内容: 千葉市立轟町中学校に通う生徒の家庭にホームステイをしながら轟町中学校での授業の体験、千葉市長・議長表敬訪問、市内見学(モノレール車両基地見学、お寺での写経体験など)、東京見学(浅草、お台場)を行った。



モノレールの運転手に扮する
ヒューストン来業者



轟町中学校でのお別れ会の様子

来業者の感想

- ホストファミリーの家族の一員になれたような気がして、とても楽しかったです。みなさんのことは絶対に忘れません。またすぐに会いましょう!
- 轟町中学校の授業に参加し、千葉での生徒の日常生活を直接体験できたことは、単なる観光を超えた貴重な機会でした。生徒、先生、そして学校関係者の皆さまに温かく迎えられ、授業に参加したり見学したりできたことは、とても光栄なことでした。

受入家庭の感想

- 娘の同じクラスの生徒から留学生を受け入れてくれてありがとうと言ってくれたと聞きました。娘だけではなく轟町中の生徒達のためになったのだと思い受け入れて良かったです。家族ぐるみで連絡をとりこれからも関係を続けていけることは嬉しいです。
- 一生でこんな機会はないだろうと思い、申し込みました。家族全員が貴重な体験ができるととても良い機会に恵まれたと思います。素敵な機会をいただき、ありがとうございます。

(2) カナダ・ノースバンクーバー市 受入

千葉市とノースバンクーバー市は1970年に姉妹都市提携が結ばれ、その同年に開始された青少年交流事業は今年で55周年を迎えます。

受入期間: 2025年8月5日～8月21日

※航空会社のストライキにより滞在期間が2日間延長

来業者: カナダの高校生4人、引率者1人

滞在内容: 千葉市の一般家庭でホームステイし交流を深めながら、千葉市行事に参加及び日本文化体験をしました。松田次泰氏の日本刀鍛冶場見学や向こう槌体験、阿武松部屋にて相撲稽古見学・取り組み体験、親子三代夏祭りにて「はな神輿」や「千葉踊り」に参加、千葉中央ライオンズクラブ納涼会にて三味線体験、千葉の郷土料理「太巻き祭り寿司」料理体験、千葉市長・市議会議長表敬訪問、千葉都市モノレール車両基地見学 など



緊張した面持ちで初めて日本刀を
手に持つカナダの高校生



相撲部屋にて力士に挑む様子

(3) カナダ・ノースバンクーバー市 派遣

派遣期間: 2025年8月4日～8月23日

※航空会社のストライキにより滞在期間が4日間延長

派遣者: 千葉市の高校生4人、引率者1人

滞在内容: 現地家庭でホームステイし交流を深めながら、各行事への参加及び体験をしました。ノースバンクーバー市長表敬訪問、Stevenston Day(鮭缶詰博物館・Britania Shipyards漁村博物館見学)、Lions Day(Capilano River Facility 鮭の養殖場見学、Gas Town散策)、Deep Coveにてカヤック体験、Stanley Parkにてサイクリング、Whistler Trip(ブリタニア鉱物博物館見学)

また、派遣生が各自で決めたテーマに基づき研究したことを10月8日(水)に開催された帰国報告会にて発表しました。



研究テーマを発表する
派遣生



日本の浴衣を着てノースバンクーバー市長を
表敬訪問する千葉市派遣生と引率者

来業者の感想

- 鍛冶場見学で、本物の日本刀に触れ、歴史と刀鍛冶について説明を聞いた時、その情熱と緻密さに驚かされた。これは日本人でなければできない芸術であり、その文化的な価値を理解する助けとなった。
- 千葉市の祭りを体験し、祭りにより人々が結びついていく様子を実感した。千葉踊りはいつまでも踊り続けられると感じたほど、一体感を味わえた。

受入家庭(令和6年度千葉市派遣生)の感想

- 自分が気づけなかった日本の素晴らしいところを改めて発見することができた。どんな食事が好きか、日本のどんなところが好きなのかなど、思いを巡らせ考えるのはとても楽しい時間だった。実際に喜んでる顔を見ることができたときは最高に嬉しかった。
- 私の妹に対しても「君は僕の妹だ!」と断言するなど、来業者が私たちを本当の家族のように感じてくれていたことが嬉しかった。

派遣生の感想

- おもてなし精神や優しさに触れたことで、自分も日本で恩返しをすると共に、多くの人にその経験をしてもらいたいと感じるようになった。視野が広がり、世界各地にどのような文化があるのかについて、より興味がわくようになった。さらに、日本の文化をもっと知り、身につけたいと思った。
- この先の進路などについて、選択肢は日本だけでなく様々な場所があるということを知ることができた。カナダだけでなく、いろいろな場所に行って学んだり働いたりしてみたいと思った。

なお、派遣生及び引率者の感想の他、研究テーマをまとめた帰国報告書を当協会のホームページからご覧いただけますので、右の二次元バーコードを読み取ってご覧ください。



多文化ふれあいフェスタ in 千葉幸町団地への参加報告

6月21日(土)、UR都市機構主催で千葉市美浜区の千葉幸町団地にて「多文化ふれあいフェスタ」が開催され、千葉市とともに当協会も参加しました。

このイベントは、市内で増加している外国人住民と地域との良好な関係づくりを目的に行われ、警察や自衛隊なども参加しました。

当協会のブースには多くの外国人が訪れ、日本での生活に関する相談や、当協会が生活情報を発信しているFacebookやLINEへの登録をしていただきました。

また、初の試みとして「スマホを使って外国人と話してみよう!」を実施。自動通訳機能を活用し、日本人と外国人がそれぞれ母語で会話を体験しました。来場した日本人住民の方からは、「隣人のベトナム人と話してみたい。いつも夕飯時にいい匂いがするので、スマホを使って何の料理か聞いてみたい」との声も寄せられました。

この取り組みを通じ、日本人と外国人の交流が広がり、多文化共生社会の実現へとつながることを期待しています。



九都県市合同防災訓練(千葉会場)に参加

千葉市国際交流協会は外国人市民の皆さんと一緒に、イオンモール幕張新都心周辺にて8月31日(日)実施の「九都県市合同防災訓練(千葉会場)」に参加しました。参加者は、地震車による地震体験やごみ袋で作る雨合羽、AED・車いす体験などを通じて、災害時の対応や障がい者支援について学びました。

さらに、災害用非常食の試食・説明を受け、防災の大切さを実感しました。

訓練後には、当協会から非常食の説明と配布を行い、参加者からは「地震体験は怖かった。家に帰ったら安全を確認したい」「非常食の説明で重要性を知った。自宅でも備えたい」といった感想が寄せられました。

今回の訓練を通じ、外国人市民とともに防災意識を高める貴重な機会となりました。千葉市国際交流協会は、今後も地域の日本人・外国人の皆さんと一緒に、安全・安心なまちづくりに取り組んでまいります。



AED訓練を行っている様子



地震車による地震体験

CMBデザイン&国際交流フェスティバル2025に参加 ～防災かるた～

開催日: 10月2日(木) 場所: 千葉市中央公園

千葉モードビジネス専門学校主催のネパールで秋の収穫を祝う「デザイン」の祭りに参加しました。

学校に在籍する多国籍の外国人留学生が参加しており、ネパール、スリランカ、ベトナム、フィリピン、モンゴルなど国際色豊かなイベントでした。

協会出展では「防災かるた」ゲームをしました。防災標識のピクトグラムとその意味を多言語標記した協会オリジナルのカードを使い、防災標識や日本語を覚えてもらいました。見慣れないピクトグラムのカードを前に、留学生の皆さんは苦戦していましたが、防災標識を理解することで確実な避難ができることを知っていただきました。



当協会ブースで行った「防災かるた」に多くの方が参加してくれました

第9回日本語交流会(外国人による日本語スピーチ等)

10月18日(土)千葉市国際交流プラザにて開催しました!

今年の日本語交流会は、日本語スピーチの他、歌の発表がありました。

発表者は緊張しながらも、自分の思いや経験を一生懸命伝え、会場からは大きな拍手が送られました。

発表の後には交流の時間が設けられ、日本人市民と外国人市民が自由に会話を楽しみました。

初対面でも自然と会話が生まれ、文化の違いを楽しみながら、共通点を見つけて盛り上がる場面も多く見られました。形式にとらわれない、温かく開かれた交流の場となり、多様な背景を持つ人々が心を通わせる貴重なひとときとなりました。

発表者感想

- 来場者の皆さんが、家族のような温かい目でみていただいたおかげで、あまり緊張しないでスピーチをすることができました。
- うまくできるか自信がなかったですが、挑戦しようという思いをもって発表に臨みました。応援していただきありがとうございました。

来場者感想

- 皆さんの日本語による発表は素晴らしかったです。感動いたしました。交流の場もあり、楽しいひとときを過ごさせていただきました。
- 発表者の日本語学習に対する想いや、学習に取り組む姿勢というものを学ばせていただきました。大変勇気づけられました。



日本語スピーチ発表の様子



外国人発表者集合写真

国際交流ハロウィンパーティ

10月31日(金)の夜、千葉市役所1階の市民ヴォイドにて、千葉市と千葉市国際交流協会の共催による「国際交流ハロウィンパーティ」を開催しました。

当日は雨にも関わらず大勢の方々にお集まりいただき、会場はたいへんな賑わいとなりました。世界の料理を味わいながら音楽演奏を楽しみ、国籍も世代もさまざまな参加者同士が日本語のみならず、多様な言語で会話の花を咲かせていました。

また、お子さん連れのご家族も数多く参加され、仮装した子どもたちの笑顔が会場をさらに明るく彩りました。大人も子どもも一緒になって国際交流の雰囲気を感じられる場となり、終始和やかなムードに包まれていました。

今回で3回目となるハロウィンパーティは、参加者の皆さまからも「とても楽しかった」「また来たい」との声を多くいただき、好評でした。



雨でも賑わったハロウィン会場

語学講座の報告

(1) 初級英語サロン 6月4日～7月16日 全6回(6/25は休み)

(2) はじめてのベトナム語 6月6日～7月11日 全5回(6/27は休み)

初級英語サロンでは、社会問題をテーマにした英語でのディベートや日本文化を紹介するプレゼンテーション演習など、様々な方法でコミュニケーションツールとしての英語を学びました。

はじめてのベトナム語講座では、基本的な発音に始まり、文法、ベトナムの文化・習慣まで幅広く学ぶ講座となりました。

いずれの講座も受講者から「講座の時間が待ち遠しい!」と感想を頂くほど楽しく充実した学びの時間になっていました。



初級英語サロン



はじめてのベトナム語

日本語教育推進事業の報告

今年度は生活者を対象とした日本語クラスに夕方から夜間に参加できるクラスを追加しました。
また、オンデマンド日本語学習プログラムでは目標とする日本語レベルを拡充しました。
その他、地域市民に向けた講座や研修も各種開催しました。千葉大学共催で開催した伝わりやすい・やさしい日本語講座では西千葉キャンパス内の会場で学生も参加しやすい講座となりました。

主なもの

- ・グループ学習クラス 6月3日～9月16日 17:50～19:50 全12回
- ・社会生活に役立つ「千葉市日本語学習プログラム(A2)」追加
- ・日本語交流つなげて講座(5月12日～9月25日)
- ・フォローアップ研修 「多文化防災ワークショップ」7月19日
- ・伝わりやすい・やさしい日本語講座
7月18日(外国にルーツを持つ保護者との円滑なコミュニケーションに特化)
8月1日



グループで防災ゲーム
(多文化防災ワークショップ)



伝わりやすい・やさしい
日本語講座

シンポジウム ～[予告]地域日本語教育推進事業シンポジウム 2026年3月開催 千葉市役所1階正庁～

協会では、令和3年度より多様な言語・文化を背景に持つ人々の間の円滑なコミュニケーションと相互理解を目指し、千葉市からの委託事業として「地域日本語教育推進事業」を運営しております。令和7年10月現在で千葉市の外国人市民の割合は4.3%を超え今後も増加が見込まれる中、「日本語教育」はますます重要となっています。

本事業開始からの5か年を振り返り、これからの日本語教育と地域のあり方を考えるシンポジウムを開催します。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

<概要>

日時:2026年3月11日(水)10:00～14:30

内容:1部 事業報告、基調講演、パネルトーク 2部 情報交換会

申込方法等詳細は後日当協会ホームページでご確認ください。



団体賛助会員 「言語交流研究所ヒッポファミリークラブ」及び「千葉ユネスコ協会」のご紹介

今回ご紹介する2つの団体は、どちらも「ちば市国際ふれあいフェスティバル」で長年主催者団体としてフェスティバルの運営に携わっていただいております。

フェスティバルの運営協議会の会長を現在務めておられる「言語交流研究所ヒッポファミリークラブ」の岩井恭子さんと、副会長を務められている「千葉ユネスコ協会」の高井義信さんにお話をお伺いしました。

なお、「千葉ユネスコ協会」さんは今年の2025年で設立50周年を迎えたとのことでしたので、そのことについてもお伺いしました。



写真左から岩井さん、高井さん

言語交流研究所ヒッポファミリークラブ

1. 団体紹介

ヒッポファミリークラブさんの活動の内容や目的についてご紹介いただけますか？

一般財団法人言語交流研究所ヒッポファミリークラブは、多言語の自然習得活動と国際交流、言語の自然科学的探求を目的とする団体です。どんな国、どんなことば、どんな文化を持つ人たちとも、互いに理解し合い、心を開く関係性をめざして44年前に設立されました。ここ千葉市では1984年に活動が始まり、0歳の赤ちゃんからシニアの人まで、多世代多国籍で活動しています。

2. 個人の関わり

岩井さんご自身がこの団体に関わるようになったきっかけや、印象に残っている経験を教えてください。

私は、2000年に子供の幼稚園のママ友から紹介してもらいました。当時2歳、4歳、6歳の3人の子供たちの子育てに奮闘中……しかし、子供が生まれる前にできたフランス人の友達と“次回会った時に彼女の母語で話して喜ばせたい!”という野望があり、子供達家族と楽しくいろんな言語を自然に習得できるという活動に惹かれました。私のやる気とは裏腹に、日常の疲れで行くのが精一杯な私をよそに子供たちは遊びながらどんどん新しい言葉を口にし始め驚いたのを覚えています。

年代を超えた友達が出来、子供たちも沢山の人の愛されて育ちました。さまざまな国の方を狭い我が家にホームステイで受け入れたことも、家族みんなで文化の違いを肌で感じたり、違いを越えて同じ人間を感じたり、視野が広がりました。

大人になった子供たちは今、コミュニケーションを大切にできる人となってくれて、私一人ではできない子育て、そして自分育てもでき、今も尚沢山の仲間と楽しみながら活動をしています。

3. 多言語活動の意義

ヒッポファミリークラブさんが掲げる「多言語での交流」が、地域の人々や子どもたちにどんな影響を与えていると感じますか？

多言語に触れていると、相手の言葉に耳を傾ける力がついてくると感じています。赤ちゃんは、その人が何語を話しているかではなく、何を言おうとしているかを全身で吸収しようとしします。人間として誰もが持っている“ことばを習得しようとする力、姿勢”を持つことで誰とでも理解し合える希望を感じます。

千葉市には外国籍の方が年々増え、学校や職場、生活を共にする機会が増えています。英語はもちろん大切な第二言語ですが、相手の母語に興味を持ち、大切にすることは、その人自身を大切に思う証だと思えます。挨拶だけでも相手のことばで話した時に涙を浮かべて喜んで下さる方も居て、多言語が素敵な出会いにつながるきっかけになっています。



ヒッポファミリークラブの活動風景



岩井さん自身もメンバーの中学生たちを連れてホームステイ交流へ

4. ちば市国際ふれあいフェスティバルとの関わりと運営協議会会長として

ヒッポファミリークラブさんは、長年「ちば市国際ふれあいフェスティバル」に参加されてきましたが、特に思い出深いエピソードはありますか？

フェスティバル運営協議会の会長を務められて、特に力を入れている点や、心がけていることは何ですか？
一つ目は展示ブースに、ある外国籍の女性がいらして、涙を流しながら「私は、友達が欲しい！」と切々と語られたことです。その方は、お料理を教え、文化の交換も楽しいけれど、日々の生活の中で「友人」と言える人がなかなか出来ないと。改めて、国際交流の意味を考えさせられた忘れられない出来事です。

もう一つは、ふれあいフェスティバルが自主運営になった時のこと。参加団体…決して若くない先輩方とも汗を流しながら、みんなでパネルや机椅子を運んで準備、片付けをした時です。協会の方々のお力を支えにみんなでフェスティバルを作る喜びを感じ、今に至ります。

5. 未来への展望

今後、千葉市でどのような国際交流・国際協力を広げていきたいと考えていますか？

コロナの時期も国内からオンラインで交流し続け、今は世界の人たちと直に会える喜びを身体いっぱいを感じる交流ができるようになりました。高校留学に行った子たちは、現地校に通い、受け入れホスト家族の一員になる努力をしながら、ことばを獲得し、如何に自分の知っている世界が狭いこと、また生の世界情勢を感じ、目を輝かせながら帰国。そんな彼らの話をワクワク受けとめる側も一緒に考えたり、勇気をもらったりしています。

いろんなツールで世界の情報は簡単に得られる今の世の中ですが、実際に体験して感じることをいつも忘れないでいたい。人と人が出会い、その温かいふれあいから良い化学反応が起きて、未来へ新しい風が吹くことを思い描いています。



フェスティバルでの
ヒッポファミリークラブの皆さん



高校留学の帰国ホヤホヤの
報告を聞く会にて

千葉ユネスコ協会

1. 団体紹介

千葉ユネスコ協会さんの活動の内容や目的についてご紹介いただけますか？

大戦後1945年に誕生した国連UNESCOへの日本の加盟を目指して、1947年に仙台にユネスコ協力が発足し、世界平和を希求する民間ユネスコ運動は急速に広まり、日本全国に約270団体・世界に約4,400団体となっております。ここ千葉市に1975年生まれたのが「千葉ユネスコ協会」で、50周年を迎えました。

教育科学文化を通じて平和の文化を構築して、世界市民の知的精神的連帯の上に世界平和を目指すという理念の基にThink Global, Act Locally をモットーに、ユネスコ・ネットワークを活かしながら地域に根差した活動を行っています。

具体的には、世界遺産地域遺産の啓蒙普及セミナー、国際理解交流イベント、ユネスコスクールでの世界市民教育、平和コンサート、子どもキャンプ、世界寺子屋運動、災害救済復興募金活動、その他です。

2. 個人の関わり

高井さんご自身がこの団体に関わるようになったきっかけや、印象に残っている経験を教えてください。

2000年に千葉市で千葉ユネスコ協会主管の「全国ユネスコ活動研究大会」が開催され、そこに招待され参加したのが、入会の最大のきっかけでした。1999年に世界遺産登録されたばかりの日光の社寺(日光東照宮ほか)の紹介、ユネスコ日本フェアプレイ賞受賞の谷亮子(柔道家)、スペシャルアドバイザーのフランソワーズ・モレシャン、講演・ディスカッションでの専門家の面々など、新鮮な文化的知的刺激を受け、全国的・世界的ネットワークと教育科学文化を通じて世界平和を目指す理念に共鳴しました。

3. 教育・平和の理念

ユネスコ精神を地域に広げる上で、特に子どもや若い世代に伝えたいことは何ですか？

ユネスコスクールは、日本に約1,000校、世界に約12,000校ありますが、その目的は一言でいえば平和を愛する「地球市民」の育成です。ひところ日本の若者の意識が内向きなので、教育の国際化が叫ばれていて、英語教育の強化や留学の相互促進など進められてきましたが、まだまだ不足な現状です。外国人旅行者が年間3,000万人を超えて今後6,000万人が予想されていますが、旅行・留学その他を含めて国際交流を積極的に行い平和を愛する「地球市民」を目指しましょう。

4. ちば市国際フェスティバルとの関わり

千葉ユネスコ協会さんは、長年「ちば市国際ふれあいフェスティバル」に参加されてきましたが、特に思い出深いエピソードはありますか？

フェスティバル運営協議会の副会長を務められて、フェスティバルを支える立場として、どのような思いや工夫をもって取り組まれていますか？

「コロナ禍」でのバーチャル開催の試みと継続の努力には感謝します。「コロナ禍」でブース・ステージ共に参加団体が減少しましたが、また徐々に復活しつつあり嬉しい限りです。

会場も、センシティ・きぼーる・市民会館などなど転々としてきました。それぞれに良さや思い出はありましたが、やっと定住の地「千葉市役所庁舎・市民ヴォイド」を得られた様で安心しています。この最高クラスの会場を最大限活かして、伝統の国際フェスティバルをより活性化し、国際交流・国際理解の場として、時代に合わせて成長させて行きたいですね。

5. 50周年の節目

2025年6月で50周年を迎えられましたが、これまでの歩みの中で特に大切にしてきたことは何でしょうか？ 50周年を節目に、今後どのような活動や新たな挑戦を展望されていますか？

ユネスコの原点である、教育科学文化を通じた平和の文化の構築と世界市民の知的精神的連帯による世界平和の実現という壮大な理想・理念を、戦後80年目の今年に改めて、自らの活動に照らし合わせて、地域の中でどのような活動が可能なのか、全国約270団体・世界4,400団体の民間ユネスコ協会、全国約1,000校・世界12,000校のユネスコスクールのネットワークも生かしながら、60周年に向けての体制づくりを模索している所です。



ユネスコ世界文化遺産の
原爆ドーム(広島平和記念碑)



ユネスコスクールでの子どもキャンプ



フェスティバルで披露する
大江戸玉すだれ



平和コンサート「貞子と千羽鶴」
創作フラ

両団体のインタビューを通して

ヒッポファミリークラブと千葉ユネスコ協会のお話から、ことばや文化を大切にしながら人と人がつながる大切さを改めて感じました。多世代・多国籍での交流や、平和を願う教育活動は、地域に暮らす私たちにとって大きな力となっています。これからも両団体とともに、千葉市での国際交流がさらに広がり、温かい出会いが積み重なっていくことを期待しています。

外国人市民向けLINE相談

外国人出身者向けに、多言語でLINEを使って相談ができます。そのほか、生活に役立つ千葉市の情報、大雨警報、台風情報、地震などの災害情報も発信しています。未だ登録していない外国人の方はぜひご登録ください。また、お知り合いの外国人の方にもよろしかったらお伝えください。



LINE相談の登録



LINEでの過去の災害情報発信

LINE利用中の外国人の方から寄せられたご意見

「千葉市国際交流協会のLINEから地域の祭りなどのイベント情報のほか、津波注意報などの災害情報も送っていただき、千葉市に住んでいる外国人にとって頼れる存在です。いつもありがとうございます!これからもずっと応援していきたいと思っています。将来的には千葉市の住民の皆さん向けに、外国人によるボランティアなどもやりたいです。」

【使用可能な言語】

日本語(やさしいにほんご)、英語、中国語、韓国語、スペイン語、ベトナム語、ウクライナ語の7言語

注意:言語によって相談できる曜日や時間が違います。

言語の対応日時は、右の二次元バーコードからご覧ください。



対応言語の日時

編集・発行

公益財団法人千葉市国際交流協会

〒260-0013 千葉市中央区中央3-3-1 フジモト第一生命ビルディング2階

TEL 043-306-1034 FAX 043-306-1042

E-mail ccia@ccia-chiba.or.jp



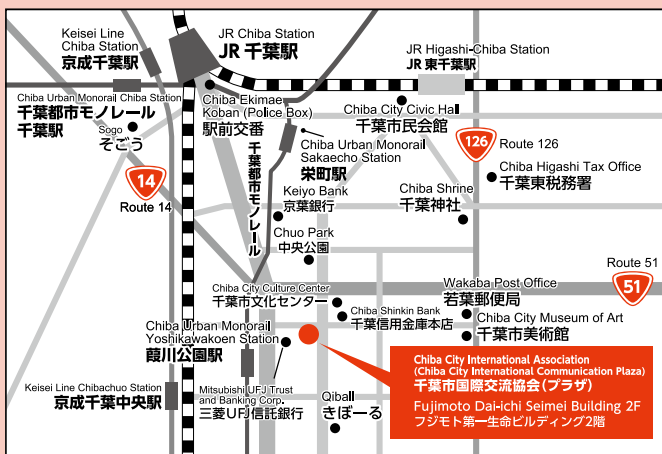
HP



facebook



地図(MAP)



広告募集

協会情報誌ふれあいに 広告を出しませんか?

次号は令和8年4月発行予定!
年3回各回3,000部発行しています。

費用

1単位5,000円(サイズ縦45mm×横85mm)

配布先例

千葉市国際交流協会賛助会員、
区役所、コミュニティセンター、公民館、千葉市美術館、
千葉市生涯学習センター、図書館ほか
千葉市国際交流協会のホームページ及び
FACEBOOKにも掲載します。



賛助会員募集

会費

学生・外国人会員:1人 1,000 円より/半年
個人会員:1人 2,000 円より/年
団体・法人会員:1団体・法人 10,000 円より/年

特典

- ①協会情報誌「ふれあい」の送付
- ②協会主催有料講座の受講料割引
★団体・法人会員の場合、5名様まで②の割引対象となります。
- ③千葉市美術館観覧料2割引・千葉市科学館入館料2割引(※)
※千葉市科学館セット割の割引はありません
※割引の利用時には窓口で賛助会員証(有効期限内)を提示してください

申込・お支払い

ホームページからお申込みいただけます。
また、クレジットカードでのお支払いも可能です。
(決済可能クレジットカード:VISA,Master,AMEX,JCB)



賛助会員申込
(個人)



賛助会員申込
(団体・法人)

協会情報誌「ふれあい」の バックナンバー

インターネットなら、最新号からバックナンバーまで読むことができます。また、協会のこと分かるパンフレットもありますのでご覧ください。



協会情報誌
「ふれあい」



パンフレット